

- 技術イノベーションとは、発明や初期開発努力だけでは実現しません。世の中に役にたつものとして、見えるものとして、具体的に実現されて、はじめて、技術イノベーションと呼べるものになります。
- 企業の社長や責任者が、TVや新聞の報道陣の前で、誇らしげに新しい商品を説明する様子をよく見ます。

製品を開発し商品化を指導した企業の社長や責任者が、その代表者としてではありませんが、実際に企業で開発し、生産し、商品化するには、実際には、ひとりでできるわけはありません。実際には、多くの人材とお金と時間を投資する必要が企業にあります。

- そのため、商品化された製品がたいへん素晴らしいもので、世の中に役に立つものであればあるほど、社会に非常に広く貢献した場合であればあるほど、いろいろな業界団体や、社会奉仕財団や、国際学会で企業として、評価され、表彰を受ける場合があります。

その場合、実際に評価され表彰を受ける人は、その企業の責任者や、事業化を推進した責任者、または、開発の責任者です。その成果の代表者として、表彰をもらう場合が多いです。そして、その仕事を実際に一緒に進めた多くの技術開発者、生産立ち上げ者や営業担当や販売担当とその受賞と一緒に喜び合います。

- なかなか、外部の人間からは、だれが本当に開発を担当し、生産し、商品化を企業内で長い年月をかけて試行錯誤して失敗を繰り返し、それにもあきらめず、がんばり、実行し、その成功に導いたのか、その企業内での細かい開発の歴史の詳細は、実際にはベールに包まれ、見えない場合が多いです。それは、当然であり、しかたのない事です。いつの間にか、若い世代の企業の世代から忘れられる場合が多いです。